

平成 18 年 度

# 医学部・医科大学学生のための卒前教育



社団法人

日本東洋医学会

Kampo Medicine since 1950

03-3274-5060

URL : <http://www.jsom.or.jp>

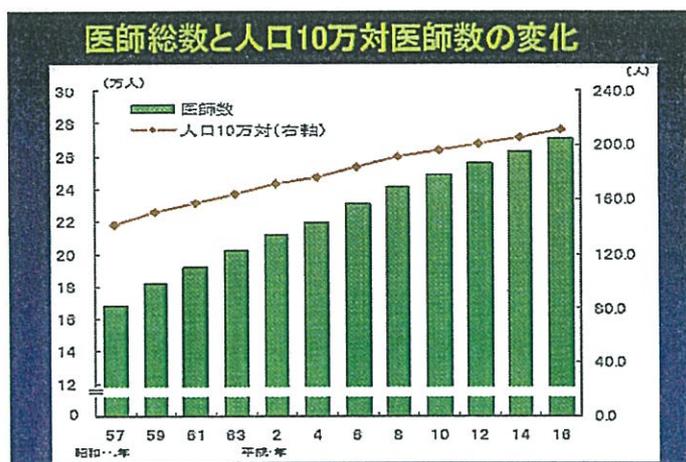
## 医師としてのキャリアパスとしての漢方医学

(社) 日本東洋医学会理事 渡辺 賢治  
慶應義塾大学医学部漢方医学講座教授

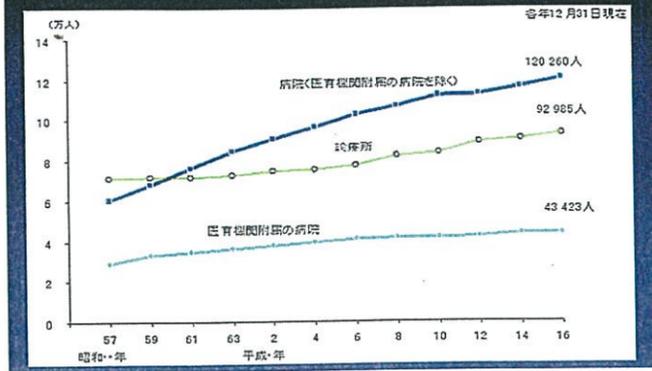
1. 医師としてどのような道があるか
2. 何故漢方を勉強しなくてはならないの？
3. 東西医学はそんなに違うの？
4. 医師として身につけるべき漢方スキル
5. スペシャリストとして身につけるべき漢方スキル
6. Mechanism 解明、EBM の重要性
7. 地域医療から世界医療へ
8. おわりに

### 1. 医師としてどのような道があるか

医者黄金時代は過ぎ去った。これから医師としてどのように生きていくかは真剣に考えていかねばならない。経済的優遇もなく、訴訟の危険性に晒されながら、かつ医師という責任重要な職務をどのように果たしていくべきであろうか？



### 施設別にみた医師数の年次推移



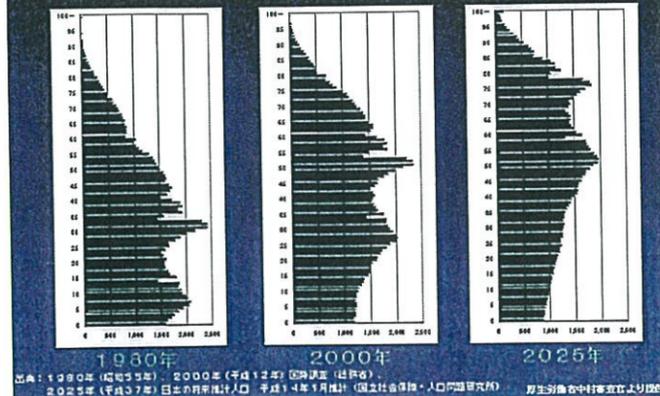
### 病院勤務医の内訳

内科	58,011人	(35.4%)
外科	27,385人	(16.7%)
整形外科	12,093人	(7.4%)
小児科	8,393人	(5.1%)
産婦人科	6,683人	(4.1%)
眼科	5,037人	(3.1%)
耳鼻咽喉科	3,836人	(2.3%)
精神科	10,266人	(6.3%)
皮膚科	3,381人	(2.1%)
リハビリテーション科	1,569人	(1.0%)

### 2. 何故漢方を勉強しなくてはならないの？

今後の医療社会を見据えた場合のキーワードは Patient Centered Health Care, 超高齢社会への対応、予防医学へのシフト et. al. である。

### 人口構成の変化



### 漢方復興の理由

1. 細分化されすぎた西洋医学に対する反省
2. 副作用への危惧
3. 不定愁訴に対する扱い
4. 疾病構造の変化
5. 個別化治療の重要性

### 3. 東西医学はそんなに違うの？

漢方を含む東洋医学も西洋医学も病める患者を治癒する、ということにおいて何ら変わりはない。ただし医学が文化的思想的背景と密接に関係している以上、その基本的概念、アプローチには自ずと違いが生じる。一時漢方医学が西洋医学の対極として位置づけられていた時代もあるが、今では対立する概念から協力しあう関係へと変遷を遂げている。

### 西洋医学の祖 ヒポクラテス



ヒポクラテス全集エッセー、1957年、Hippocrates, *Medical Writings*, American Whittaker Publishing Co., Inc., London, U.K. Geneva, Lyons & Sumidibus Samuella Chouet, M.D. C.L.VII, 224 x 353mm. 国立大学病院 香取医学部 香取

ヨーロッパ古代医学にも様々な流派があったが、最も大きな影響を与えたのは、ヒポクラテス(AD460頃-377頃) ガレノス(130頃-200頃) 並びに、その信奉者たちである。ヒポクラテスは、超自然的な病因や魔術による療法を排除し、医学を「自然科学」へと導いた。しかし、彼の考えにも思弁的な要素が少なからずみられた

### 現代西洋医学 vs. 漢方医学

- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| ・ 分析的                | ・ 全人的            |
| ・ 臓器/細胞をターゲット        | ・ 焦点は患者          |
| ・ 効率を重んじる(公衆衛生学の進歩)  | ・ 個人の重視(効率的ではない) |
| ・ 急性疾患(感染症)や外科的手術に成果 | ・ 予防医学、QOLの向上に成果 |

### 植物由来の医薬品

薬名	適応	生薬
イリノテカン	抗癌剤	Nyssaceae
エトキシド	抗癌剤	ショウセンアサガオ
エビプロスタット	前立腺肥大	ハコ根、スナギク
カンフル	抗炎症	クズノキ
キニン	抗マラリア薬	キナ
コルヒチン	痛風	イメサフラン
サリチル酸	抗炎症	柳
サントニン	抗回虫薬	シナヨモギ
ジギトキシン	強心剤	ジギタリス
スコボラミン	抗コリン剤	ショウセンアサガオ
セファランギン	白血球減少、脱毛	Stephania
トラニラスト	抗アレルギー	Sacret Bamboo
バクリタキセル	抗癌剤	イチイ
ビンクリスチン	抗癌剤	ニチニチ草
ベルベリン	止痛剤	黄柏、黄連
エフェドリン	気管支拡張薬	麻黄
レセルピン	降圧剤	インド蛇木

### 複数の生薬が組み合わさっている

#### 葛根湯

一つの薬としての単位に

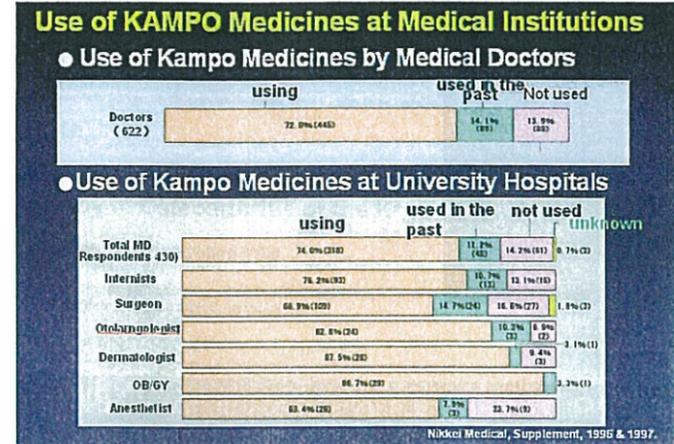
葛根 芍薬  
麻黄 大棗  
桂皮 甘草  
生姜

### 代替医療から統合医療へ

明治初期の西洋医学 vs. 漢方医学という構図から現在日本では完全に西洋医学と漢方医学が融合した形で診療が行われている。このようなシステムを持っているのはわが国だけである。世界の三大伝統医学という中国を中心とした東アジアの伝統医学、インドのアーユルヴェーダ、イスラムのユナニである。その他アフリカ諸国など数多くの地域に伝統医学が存在するが、その多くは西洋医療の恩恵にあずかれない人たちのための医療となっている。その一方で先進諸国においても伝統医学が注目されてきている。その理由として、現代医学に対する不信感や限界を感じてのことである。そうした中で英国から発信した補完医学という考えがヨーロッパで起こり、米国からは代替医療という考え方が注目されるようになった。この二つを合わせる形で補完・代替医療 (Complimentary and Alternative Medicine = CAM) と呼ばれるようになった。しかし近年では西洋医学の代わりではなく、融合した形で用いるべき、とのことから補完・統合医療 (Complimentary and Integrative Medicine) と呼ばれることが多い。

### 4. 医師として身につけるべき漢方スキル

今や漢方医学は特殊なものではなく、すべての医師が身につけるべきスキルとなっている。ではどのようなスキルが最低限要求されるのであろうか？

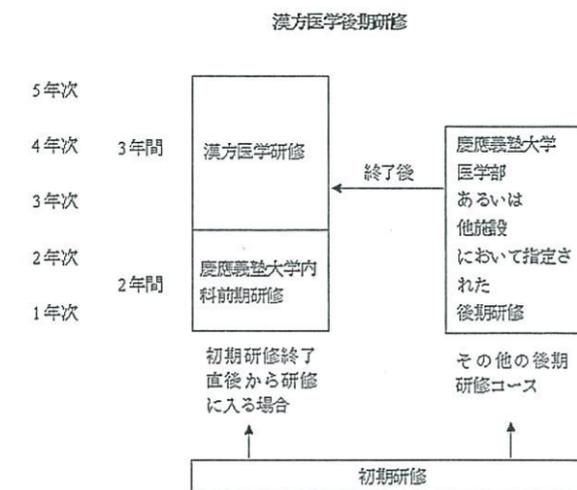


### 慶應義塾大学における学生講義 授業科目名: 総合診断学 漢方医学

#### 教育目標 (G I O) :

西洋医学一辺倒の医学部教育において「漢方医学」というと何か神秘的ではあるが胡散臭い、というイメージを持つのではないかと思う。実際には保険適応の医療用薬剤として30年近くの歴史がある。現在では7割以上の医師が日常診療に漢方薬を使用している。しかし、やみくもに用いても漢方薬の効果が上がらないどころか予期せぬ副作用の現れることもある。我々医療者は西洋医学とか漢方医学というジャンルを越えて患者に何が出来るか、という模索を常にすべきである。そうした意味において漢方医学は、西洋医学との併用により治療効果を高めることができる。本講義の目標は、将来医師となる者が身につけるべき漢方医学の考え方、実際の運用法について理解することにある。

### 5. スペシャリストとして身につけるべき漢方スキル



## 慶應義塾大学における専修医（後期研修）プログラム

- 漢方医学の基本概念を身に付ける。
- 指導医のもと一般的な漢方診療技術を習得する。
- 『傷寒論』、『金匱要略』などの古典文献の輪読会、症例検討会、生薬勉強会などに参加して漢方医学基礎理論を理解する。
- 日本東洋医学会などに出席して、最先端の知識を得る。
- 漢方医学理論の整理、診断治療技術の向上を計り、基本的な治療計画が立案できる能力を身につける。
- 臨床・基礎研究を行い学会等で発表する。
- テーマは漢方薬の作用機序に関する基礎的研究に限らず、漢方薬の臨床効果、漢方医学的診断法の科学的根拠の解明、古典文献に基づく漢方医学理論の研究など多岐にわたる。
- 研究テーマによっては、国内外の留学が認められる。

## 6. 地域医療から世界医療へ

世界中で統合医療に対する熱い期待が高まる中、漢方が注目される時代が再びやってきた。しかし、世界の多くの人には中医学と漢方医学の区別がつかない。実際には漢に代表される古代中国から東アジアに広がった伝統医学は似ているが、少しずつ異なる医学体系を形作っている。韓国で四象医学に代表される韓医学があり、日本では腹診を中心とし、親試実験を重んじた漢方医学が江戸時代に花開いた。このように異なる伝統医学を一緒に論じることは乱暴であるが、漢方医学の知名度が低いのは日本側の努力不足も多々あると思われる。

漢方の研究論文は数多くあるが、残念ながらそのほとんどは日本語で、世界から見えてこない。最近では漢方薬を用いた論文も海外の質の良い雑誌に掲載されることが多くなってきている。漢方医学の知名度を上げるためにもどんどん海外誌に挑戦していくべきである。漢方医学はこの30年間、医療用として用いられてきた実績があり、西洋医学と一体になってきた。こうした経験は西洋社会から見ると世界中で最も理解し易い伝統医学のはずであり、その事実を知っている一部の有識者から、漢方の共同研究の申し込みがある。慶應義塾大学でもハーバード大学医学部との共同研究で、NIHから助成金をもらって国際共同研究をしてきた経験がある。こうした国際共同研究もどんどん進めるべきと考える。

また、WHOの西太平洋地区を中心に用語、情報、経穴の標準化等が進んでいるが、中でも国際疾病分類はWHOジュネーブ本部も一緒になったプロジェクトとして動いている。東アジア地域の伝統医学に関する証や診断に関して国際的な標準化を図ろうというものである。本プロジェクトは始まったばかりであり、まだまだクリアしなくてはならない点が多いが、もし実現すれば、世界中から認知されることになる。



漢方医学の特質として、複合生薬であることが挙げられる。伝統医学はいずれにしても生薬が中心であるが、古代中国医学の知恵はある一定の組み合わせで配合した複合生薬を命名したことにある。この命名により、処方個性を有し、1800年の時を経てほぼ再現して用いることができるのである。

一つ一つの生薬には多数の成分が含まれており、さらにそれが複合しているために漢方処方是非常に多くの成分を含む。さらに低分子成分から高分子成分まで多岐に亘っており、そのことが作用機序研究の上で大きな障害となっている。しかし21世紀はチップの時代である。遺伝子チップ、遺伝子発現チップ、蛋白チップなど網羅的に解析することが可能となってきている。複合生薬である漢方薬を生体という複雑系に反応させた場合、そのアウトカムは当然複雑になるので、マーカーとして単数のものを追うよりも、網羅的に観察した方が現実に即していると考えられる。パイオインフォマティクスの手法を用いて大量データを解析するシステムが必要になってくるであろう。

## 7. 作用機序解明、Evidence Based Medicine (EBM) の重要性

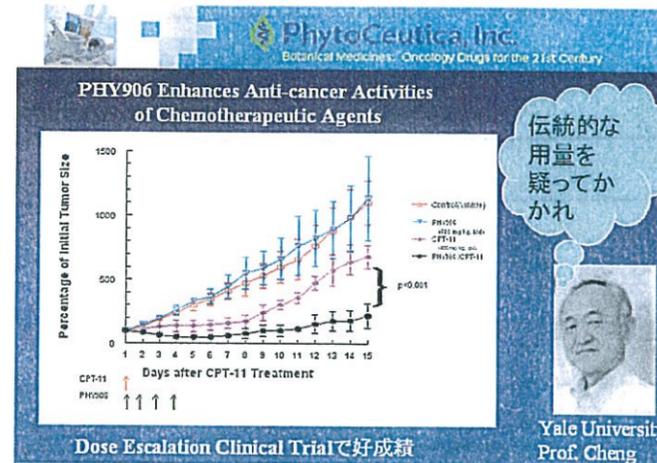
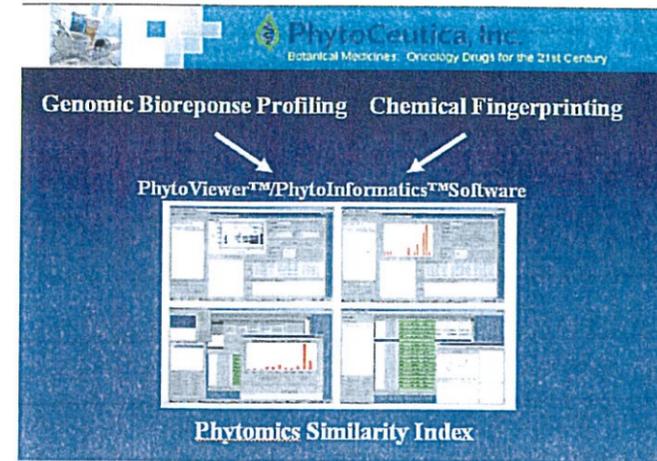
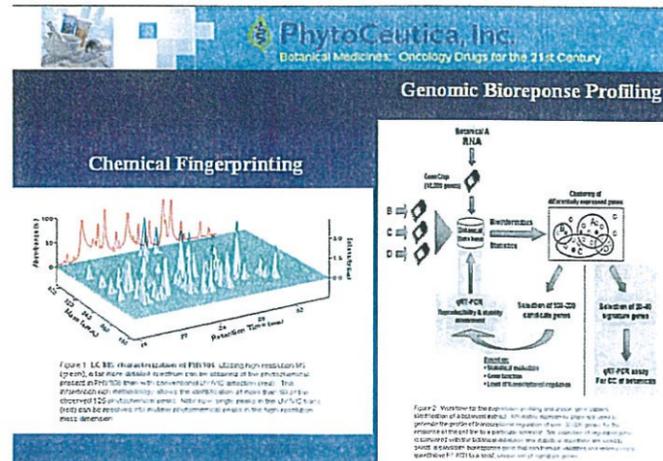
漢方医学は日本では医療用として30年の経験があることから、その効果のあることに関しては誰も異論を挟まないであろう。今後超高齢社会を迎えるに当たって、その需要はもっと高まるであろうと予想されているが、まだまだ用いられることが少ない。その大きな理由の一つは作用機序が明らかでないから、ということになる。現代医学で存分に用いられるためにはその作用機序の解明が必須である。これまでもそのための努力は十分に払われてきたが、今後は統合医療として、西洋薬との併用での有用性や、西洋薬との違いを明確にしていくことが重要である。そのような視点で新たな作用機序解明が望まれる。

世界はまだ一つの生薬の品質管理にすら四苦八苦しており、米国では品質の安定性の不備からNIHが多くの助成金を無駄にした。このような経緯から世界中が生薬製剤の品質管理に関心を高めている。わが国で用いられている医療用漢方製剤は世界で最も質の安定した生薬製剤であり、この分野では垂涎的である。こうした安定した品質の製剤を用いた研究ができることは幸いである。

しかし同時にこれに甘んじている訳にもいかない。

世界に漢方医学を発信していく際に、「証」の問題をある程度説明する必要がある。海外で漢方薬を用いる際に、その体格の違い、食事内容の違い、人種差などを考慮して、どのような証の捉え方をすべきかについても考えなくては行けない。薬用量についても、現在の薬用量は主に明治以降の先達たちの経験に拠るところが大きい。本当に今の薬用量が理想的なのか、また配合比まで考慮するとまだまだやることは多い。

日本以外の国は安定した複合生薬を作るよりも、生薬からの創薬に関心を高めている。八角からのタミフルの例のように生薬由来の創薬はまだ出てくるであろう。わが国も安定した生薬製剤のみに拘泥していると世界的な創薬競争から取り残される可能性がある。漢方製剤の研究から有効成分を同定、抽出し、創薬にもっていく意欲を常に有することが必要である。



## 8. おわりに

漢方医学は日本独自の文化である。われわれはとかく文化を軽視することが科学だという勘違いに陥りやすい。しかしわれわれはこの数千年の間にどれだけ進歩したであろうか？奈良時代の仏像を目にした時、平安時代の蒔絵を目にした時、われわれの祖先が残してくれた文化と伝統に敬意を払わざるを得ない。医療もまた文化の一つであり、人間の本质が変化していない以上、先人たちの知恵を重んじることは決して間違っていない。その経験知を実証できないのはわれわれの知恵や科学的手法がそれについていけないだけであり、それを非科学であるとするのは間違いである。これからの若い人たちには、先輩たちが越えられなかった壁を打ち破る勢いを期待したいと思う。その時に初めて人類の知恵の偉大さに敬服するであろう。

既存の考え方に拘泥しないでどんどんと新しい考え方を聞かせて欲しい。